

講義概要

科目名	講義概要
社会福祉学特論	<p>「当事者本位」「利用者本位」の視点に立ちつつ、家族、福祉施設、介護のあり方（いかにあるか）と本質（何であるか）の研究を通して社会福祉の理念を探究する。福祉現場と当事者の状況に対する理解を深め、家族（親）に関しては「当事者の視点」「親族扶養の視点」「愛の視点」から、福祉施設に関しては「当事者の視点」「保護主義の視点」「非対称性の視点」「ノーマライゼーションの視点」から、介護に関しては「自立の視点」「自立支援の視点」「介護保健の視点」から、それぞれ視点を変えながら各契機のあり方と本質を考察する。さらには、従来の福祉思想と関連づけて総合的な社会福祉理念を探究する。</p>
社会福祉学特論Ⅰ (行動療法論)	<p>行動療法とは学習理論を理論的背景にした心理療法である。行動療法では人間の不適応行動や問題行動は不適応的な学習によって引き起こされていると捉え、学習の原理によってそれらの修正や消去を行っていく。行動療法は実験的に確立された原理や手続きに基づいて不適切な習慣的行動を適応的にしていく科学的なアプローチであり、行動療法を理解するためには、学習理論（行動理論）はもとより、他の非科学的な心理療法との相違についても理解しておく必要がある。本科目では行動療法とその背景にある学習理論（行動理論）について学習し、社会福祉現場における行動療法的アプローチの適用について考察する。</p>
社会福祉学特論Ⅰ (人間動物関係論)	<p>近年、『人間と動物の関係』は、「アニマル・セラピー」「身体障害者補助犬」等、福祉・医療領域でも関心が寄せられている。しかし、社会福祉領域でも、「福祉サービス利用者のペット飼育」をはじめとする諸問題について、十分な研究・教育が進められていないため、社会福祉／『人間と動物の関係学』の双方から、正しく理解し、知見を実践につなげることが求められる。本科目では、『人間と動物の関係』の特徴・意義・課題について、特に福祉現場を中心に理解を深めることを目的としている。受講生は、関連文献の整理を通して、(1)『人間と動物の関係』に関する諸議論、(2)福祉現場における動物活用の意義と課題、を理解することを目指す。</p>
社会福祉学特論Ⅱ (アダプテッド・スポーツ論)	<p>厚生労働省が公表している体や心に障がいを持つ人の推計値は増加傾向にあり、社会や学校においても支援を必要としている人や子どもは身近な存在となってきた。しかし、この現状に対する理解は十分であるとは言い難い。どのような障がいがあっても、その人に合ったスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を整えることで、さまざまなチャレンジが可能となり、より豊かな社会的な交流の機会を持つことが期待できる。本講義では、手段としてのスポーツ・レクリエーションを活用するため、「アダプテッド」の意味について考察する。</p>
社会福祉学特論Ⅲ (研究法・調査法)	<p>よりよい支援を考察し、実践するためには、実態把握、潜在ニーズ探索、支援の効果測定・評価等を実証的、科学的に実施できる能力が必要とされる。本講義では、まず考察・実践の裏づけとなる統計学の基礎的知識を修得し、場面に応じた適切な分析方法の選択ができるようになることを目指す。次に、質的研究と量的研究の概念的理解、倫理的な配慮を伴った基本的なデータの収集法および分析法について体系的に学修する。</p>
社会福祉学特論Ⅳ (高齢者福祉論)	<p>高齢者福祉学を学ぶにあたって必要となるのは次の3つの柱であると考えられる。すなわちⅠ高齢者の心身特性を背景とした社会的特性Ⅱ高齢者福祉社会保障施策の歴史と現状Ⅲ高齢者ソーシャルワークである。本講義ではⅠに関して高齢者虐待をⅡに関しては介護保険制度をⅢに関してはソーシャルワークにおけるケアマネジメントの位置づけを学ぶこととする。これらを通して高齢者福祉学を研究する導入としていきたい。</p>
社会福祉学特論Ⅴ (東洋介護福祉論)	<p>日本で紹介されている介護あるいは社会福祉思想および活動の多くは、西洋の文化を背景に、また科学的根拠をベースに構築されている。一方で、医療や福祉は、文化との密接な関係の上に構築される側面を持つ。</p> <p>本講座では東洋（医学）思想の基本的概念を学習し、介護、社会福祉を東洋（医学）思想から捉えることにより、文化と密接に関連した介護福祉理念の構築を試みる。</p>

科目名	講義概要
社会福祉学特論VI (地域福祉論)	社会福祉計画 (social welfare planning) の方法、社会福祉問題が存在する理由、そして社会福祉問題の定義の方法。社会福祉問題解決プロセスの方法と評価の仕方。コミュニティ理論とコミュニティの重要性。地域福祉計画グループ (community welfare planning group) を設立し、情報を集め、計画を展開していく方法。地域福祉プログラム、地域福祉オーガナイゼーションの展開を実行。
社会福祉学特論VII (権利擁護論)	社会福祉は、権利が侵害されている人びとへの支援の歴史とともに発展した実践、仕組み、理論である。侵害されている権利については、個別具体的な事実からその背景にある社会構造上の問題まで視野を広げる必要がある。つまり可視化された現象としての問題から、潜在している社会構造上の要因を探り、そこに権利が侵害される契機を見るところから、潜在している社会福祉が擁護すべき権利とは何か、権利の侵害はいかにして発生するのかを、主に先行研究や文献をもとに理論的に探求することを目的とする。
社会福祉学特論VIII (施設経営論)	福祉サービスの提供組織が多様化してきている今日、それらの存在意義 (独自性) を再確認する必要性が生じてきています。特に民間施設を運営する組織としての社会福祉法人が今後も必要であるか否か、明確な整理が必要となってきました。
社会福祉学特論IX (生活支援技術論)	生活支援技術とは、高齢者や障害者への介護技術を指している。施設等で利用者の生活を支援する際の諸問題として介護者に何が起きているのかを理解する。生活支援技術論では、施設等でのサービスの質について考え、利用者のもつ様々な特性や生活歴等を理解し、ICF (国際生活機能分類) の視点に基づき、利用者のニーズに合った支援方法を考察する。生活の視点から支援方法を考察することで、利用者にとってよりよい生活が実現できる生活支援技術を学ぶことを目指す。
社会福祉学特論X (スクールソーシャルワーク論)	スクールソーシャルワークは、平成 20 年度より文部科学省による「スクールソーシャルワーカー活用事業」が開始されて以来、社会福祉学の新しい領域としてにわかに注目を集めている。しかしながら、スクールソーシャルワーク実践そのものは日本では平成の初めから行われており、また世界的にみれば、20 世紀初頭までさかのぼることができる。本特論では、スクールソーシャルワークの淵源を知るとともに、学校を活動起点としたソーシャルワークがどのような福祉的問題を対象とし、どのように展開されているのかを探求する。また現時点でも課題についても検討を行う。
社会福祉学特論XI (コミュニティソーシャルワーク論)	地域を基盤としたソーシャルワークでは、コミュニティソーシャルワークの展開が求められている。そこで本特論では、イギリスにおけるコミュニティケア政策の歴史的展開を踏まえ、日本におけるコミュニティソーシャルワークの理論化への動向を理解する。そのために、コミュニティケア、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク等の理論と実践の枠組みを学び、今日求められるコミュニティソーシャルワークの展開に向けた課題やあり方を探求する。
特別研究	<p>研究を行うのに必要な手続きや方法等について、短期集中により院生を指導し、研究の成果を論文に纏める。具体的には、修士論文作成のための先行研究の指導を行う。特に文献の検索や読解力を養い、院生の思索能力向上に努める。</p> <p>本講の流れとしては、事前に電子メールで研究到達度を把握し指導を行っていく。そして、面接授業時には仮説を立案し、リサーチを行う院生は調査の研究を、文献研究を考えている院生はその構想を立案・検討させる。そして、研究の進捗状況に沿って集中的に必要な指導と援助を行う。</p>